
「音楽性の違い」の裏事情

神奈澤伊織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「音楽性の違い」の裏事情

【Zコード】

Z5142F

【作者名】

神奈澤伊織

【あらすじ】

以前数々のバンドをやっていた筆者が体験した話、プロミュージシャンからの話。果たして「音楽性の違い」と言えるのだろうか? といふような話を書いていきます。

前書き（謹書き）

フィクションではありますんがもむらさん実名なまは出しません。そしてこれはあくまで”本音を言えないバンド達をわかってあげて欲しい”と思い書いたものです。その辺の趣意を”理解ください。

前書き

これを読んでいる方は必ずこの言葉を耳に、目にした事があるはずだ。

「音楽性の違いで解散します」

バンドの解散の常套句。

愛してやまないアーティストのこの発言に憤りを憶えた事があるだろうか？

人間だもの。

100歩譲つて解散はしちゃうがない。

でも音楽性が違うからって解散でどうなの！？

お前らプロなんだから仕事と思って割り切つたり譲り合つたりしないよー！

こんな言葉が聞こえてもおかしくはない。

お笑いブームで腐る程お笑いコンビはいるが、お笑いはほとんど解散しない。

楽屋で無言でも。

たとえ仲が悪いと言われてこるようなコンビでも。

それはお笑いは各々別行動で仕事ができる点もあるが、

バンドだってスタジオミュージシャンとなりいろんな現場を渡り歩く事だってできる。

作曲、アレンジャー、プロデューサー。

自分のパートの講師だってある程度のテクニックでなることは実際可能なのだ。

実はこの言葉の奥にはファンには知られたくない事情が潜んでいる。本当の事を言いたくないから、一番よく使われていて”アーティストっぽい”締めくくり方をする。

そう、ミュージシャンは”スター気分”がある。

スポットライトの輝きを失ったミュージシャンは救いようが無い。

どうしても世間の目から見た落ちぶれた感は拭えなくなってしまう。

だがお笑いは”人氣者だけど汚れても進んできた”という経緯がある。

筆者はある街で元・芸人さんがやつている小さな居酒屋へ行つたがその時は話も面白いし、笑いが絶えないと負の面が見えなくなる。

先ほどからお笑いとバンドマンを比べているが

それはお茶の間にわかりやすくするためだ。

もちろんさざなりにも例外はあるので全部がいつだと思わないで欲しい。

ここからは筆者が体験、もしくは聞いた
「音楽性の違い」と告げて去つて行つたバンドの
その実態を話していくとと思つ。

実態といつからこまねは嘘はつかない。
誇張も隠蔽もしない。

プロもアマチュアも含めた実話である。

アリ・シだらけのバンド

筆者は若い頃、ビジュアル系バンドにいた。
いや”にもいた”と言つべきか。

私はドラムをやっていた。

ドラムのというのはやっている人口が少なく重宝される。
なので必然的に色んなバンドから正式メンバーとは言わずとも

「今度のライブで叩いて」

と言われるのである。

基本イエスマンの僕は断る理由は無い。
その経緯でビジュアル系バンドからも誘いがきた。

ビジュアル系バンドというのは面白い人種の巣窟である。

クレイジーであつて自分が大好き。

一般人よりも危機管理能力が乏しい者も多いので事件も多い。

もちろんマトモな人も多い。

これは私の周りの”たとえ”の話だ。

まずはその中でも年上の先輩バンドのサポートをやった時の話だ。

ビジュアル系ではある程度の年齢の限界がある。

化粧のノリや音楽の年代のこともある。

基本的に若いファンに”古き良き”は存在しない。

バンド側も若いほど当然のように入気も取りやすい。

先輩たちは「若い頃に人気があつて、今は大御所とつながっている」という割とやっかいなタイプだ。

お客さんの動員数は少ないがプライドはいつちよまで、
変に大御所と繋がっているもんだから、事務所や業界的な話を後輩
にすると

何も知らない若い後輩は

「すげー！」の人といたらプロになれる」

と騙される。

騙された結果、重たい機材運びや買い物の使いつ走りなどをせら
れる

”ローディ”と呼ばれる師弟関係に墮ちるものも少なくない。

普通の音楽業界でローディーとは
「楽器のプロフェッショナルで、メンテナンス、管理できる業者さ
ん」
を指すが、ビジュアル系は違う。
基本的に単なる小間使いだ。

中には小間使いを極めてしまつて、いつまでもバンドをやつていな
い残念な奴もいる。

主人が控え室でギターを触つて2、3分ピロピロしたあと
さつとギターを受け取りスプレーをかけて磨いてスタンダードに丁寧に
置く。

打ち上げでは常に主人のタバコを2、3箱実費でポケットに忍ばせ
ておく。

気が利きすぎるのだ。

その様は執事そのもの。

いつもなると再起不能。

見た目を気にするビジュアル系が小間使いをメンバーに誘う事は一
度と無い。

話はそれてしまつたが、過去の経緯や他人の名前を使って小間使い

を絶やさない。

それが私がサポートした先輩バンドだった。

ここに仮名をあげておく。

あくまで仮名だ。実在する名前とは関係ない。

ボーカル、トシ
ギター、シン
ベース、カツツ

そして私。

私がこの3人は何かがおかしい。

そう、題名の通り「ヒミツが多い」のだ。

20代で10年以上の付き合いは非常に財産である。

ボーカルのトシはボウイ世代。

やはりバンドの看板という意識が高いのか、口調も巻き舌のロックンローラー。

彼がまずおかしい。
よく僕に耳打ちしながら

「誰にも言ひなよ」

から始まる会話を毎日してくる。
別に貴方の事は僕の普段の会話でウワサも出て来ない。
だから聞く。

僕をバンドに誘ってきた時もそつだつた。

ライブハウスの裏の誰もいない所で僕に言つてくる。

「誰にも言ひなよ」

じゃ僕にも言わないぞ。

これが僕とトシ先輩との最初の言葉である。

トシ先輩はその続きをひつ話す。

「今V（レコード会社のイニシャル）からビニーの話がきていて、
オレらのビニーに当たつて予算が2億組まれるんだ。普通なら8
千万くらいだぜ？でもそれじゃバンドはすぐに何も動けなくなる。

オマエとなりやれるんだ。」「

この時、僕は非常にラッキーな事に別のレコード会社からラムのいないあるバンドで「デビューしないか」と話がきていた。

そこで色々と業界の仕組みを聞いたり勉強したりしていたのである。

なのですぐに嘘だと気がついた。

でもライブ毎にキャラをくれるところでの了承した。

その後もトーシ先輩は

「誰にも嘘つなよ

と言つ口癖で僕にすり寄つてくる。

ビッグのレコード会社がソロで欲しがつてゐるのだが、元ベビーバンドが引き抜いてくるだの。

嘘である。だが嘘であつて嘘ではない。

妄想なのか、それとも実話でことごとく玉砕しているのか。かなり具体的に話してくるからタチが悪い。

今、世間をにぎわせているDAIGOさんがDAIGO STAR DUSTだった頃 あれはレコード会社がトシ先輩かDAIGOさんで競り合つたと話していた。

もちろん嘘だ。

その嘘は当時DAIGOさんが

「氷室京介のお墨付き」

とこののをプロモーショントークにしていたからだと後から気がついた。

トシ先輩は単純に氷室京介が好きだからだ。

金が無くても東京ドームまで飛行機で行く程だった。

そんなトシ先輩はあることないことを大きく言つ「虚言癖」を煩つていた。

次はギターのシン先輩だ。

最も情に厚く、優しく謙虚で気さく。

そんな彼も僕にこういつ切り出し方をしてくる

「みんなには言わないでね」

残念だ。いい人なのに隠し事だらけだ。
だがこの人はトシ先輩の虚言癖とタイプが違う。

彼女が怖いのと自分が貧しいのを人に言わないでと言つてくれる。

そう。シン先輩のプライベートのグチ。
なら別に僕にも言わなくてもいいのである。

彼はいつも「金が無い」と言つ。
おそらく彼の部屋にはギターとマーシャルのアンプ以外何もないで
あろうと想像する。

ちなみにギターのアンプはライブハウスに常設してある。
彼がギター・アンプを売らずにいるのはデジタル系の周囲の田を氣
にしているからである。

ビジュアル系のライブは頑張って機材を持ち込むのがステータスだ。
そしてそれをローディに運ばせて自分は早々と打ち上げ会場に行く
のもステータスだ。
だから卖れない。

そんなシン先輩が何故誰にも言わないでと貧しさを語りてくれるか。

今になって思つても僕にはわからない。

だがこれが後々大きな事件に発展する引き金となる。

ベースのカツツ先輩のヒミツはは限りなくトシ先輩と近い。

でも彼の場合はあり得ないようなデカイ事は言わない。

言つ事は周りとの人間関係の事だ。

まず彼女ができる誰にも言わない。

何故かと言つとファンであつたり

バンドをボランティアで手伝ってくれている身内であつたり。

あと他のバンドの危険な情事も

「誰にも言つなよ」

とお決まりのフレーズから始まって包み隠さず僕に聞かせる。
おそらくこの3人の中でもっとも害虫のパターンである。

でも人はすごい。

シン先輩と同様、優しく謙虚。

心を開いて話してくれるような人だ。

問題なのは女癖だ。

元来、ものすごく寂しがりやのようだ。男、女かまわず甘えてくる。身内に手を出す以外にも、惚れやすい、別れ話で取り乱すなど面倒な部分が多くある。

こんなバンドに何故いたかと言われたら

単純に安くてもギャラが発生したからである。

どんな職場にもイヤなヤツはいる。

好きな事ができて、イヤじやないけどろくでもない人ならいいじやないか。

いつでも辞めれるし。

その考えが僕に悲劇をもたらす事になった。

バンドも半年が過ぎ、レコード会社などやはり無かったなど確信した頃

もう頃合いかと辞める話を済ませた。

正式メンバーではないしそうそろかなと思っていたのか
引き止められず惜しまれつつといういにカタチで話は終わった。

私は田舎に住んでいたのだが、これを機に一人で上京してみようか
と思っていた。

バイトしながら貯めたお金があった。
少ないがこれでとりあえず引っ越して初めての一人暮らしだと緊張
していた。

そんな時、電話が鳴る。
シン先輩からだ。

「もしもししづめのさ・・・誰にも言わないでくれる?」

いつものパターンだ。

「はいはい。なんですか?」

シン先輩は次の瞬間、声を大にして謝つてきた。

「すまん！！金を貸してくれ！！サラ金に手を付けちゃってどうで
もならないんだ！！

今は青森の実家に逃げてきてるんだけど、必ず2週間後に親から借り
りて返すからーー！」

読んでいる方はもうお分かりだろう。

僕もこの頃は若かった。

無い袖が振れなくてサラ金に手を出したのに、返す当てがあるわけ
無い。

でも情に厚く、苦楽を短い期間でも供にしてきた先輩に
その当時疑つ事ができなかつた。

2週間後、結局連絡は来なかつた。

教えてもらひつた実家に電話をかけると一応母親は出る
だが

「ウチでも探している」

の一点張り。

なんとかしてくださいと粘つていると母親はこう切り出す。

「他の方からもそう言われてるんですけどとにかくもならないんですね」

なんと、彼は周囲から金を借りまくつて逃げていた。
その金額は数百万。

もちろん、みんな知っている人達だった。

何年か定期的に電話したりなどして粘つた。
だが争いというのは気持ちが消耗して行く。

結局、僕はお金を諦めた。

なぜなら証拠が無いからだ。

証文も何も無い。若い僕らが訴えても警察は動かなかつた。
探偵を雇つて直接ふん捕まえるか、親を相手取つて裁判でも起こす
か。

若い僕らはどうしていいかわからないまま

悔しさを維持できず年月に負けた。

僕の場合はラッキーな事に、上京しなかつたお陰でレコード会社から仕事が戴けた。

それは額は少なくとも念願だった音楽業界に少しでも携われただけで嬉しかった。

だから今もし本人に会っても、ぶん殴つて金を返せと迫るだろうが心底恨んではいない。

世の中憎めない人間というのはいるもので、時が過ぎた今になると悔しさは微塵も無くてむしろ何かの間違いだったんじゃないかと思つ。

何故か信じてあげたくなる。

それがシン先輩だった。

このヒミツだけのバンド、トシ先輩もカツツ先輩もシン先輩に騙されたようだ。
でも彼らは口を揃えて言つ。

「誰にも言ひなよ」

後日、サポートで別の人をギターとドラムに迎え改めて解散した。

そのライブでは

「音楽性が違つてシンとはできなくなつた」

とトシがMCで言つた。

だがあまりに大きな事件だったので密も他のバンドももちろん知っていた。

被害者も多かつたが、カツツ先輩が辛さと寂しさでこうんな女に話してしまつていたようだ。

地元が同じだつた3人。

トシ先輩かカツツ先輩がかくまつたとか庇つてゐるんじやないかと
いう疑惑も持ち上がつた。

でも彼らには本来隠し事があまりに多い。

カツツ先輩がかくまつてもトシ先輩は知らないだろ? し
トシ先輩が庇つてもカツツ先輩は知らない。

もう一つ、8年経つ。

いつか先輩達が時効と思つた時に

「誰にも言ひなよ」

と真実を話してきそつた氣が今でもしてゐる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5142f/>

「音楽性の違い」の裏事情

2010年10月28日00時48分発行